

# 千野アジア開発銀行総裁演説（要旨）

## アジア開発銀行第34回年次総会 （2001年5月9日、ホノルル、ハワイ）

### 「貧困なきアジア・太平洋地域を目指して」

#### I. 序章

21世紀を迎え、今世紀最初のアジア開発銀行(ADB)年次総会を太平洋の「東西文化の十字路」であるハワイで開催できることは、誠に喜ばしいことでもあります。ハワイでの年次総会は2度目でございます。ハワイ政府、ハワイの人々のアロハ精神にあふれる歓迎と友情に感謝致します。

ADBの全加盟国を代表しまして、第59番目の加盟国となったトルクメニスタン総務の年次総会へのご出席を心から歓迎致します。

また、開発における我々のパートナーである多国間・二国間機関、金融機関、市民社会及びNGO代表の皆様、そして報道機関の皆様、ADBの年次総会への参加を心から歓迎いたします。アジア・太平洋地域が直面している多くの挑戦に取り組んでいるADBにとって、皆様の参加が何よりの支援であります。

#### II . ADB とアジア・太平洋地域の成果

##### 地域経済動向

2000年のアジア（アジア・太平洋の開発途上加盟国）経済は、1997年の通貨危機からの回復基調を更に確固たるものに致しました。通貨危機の影響が顕著であった5カ国は、1997年以来最高の7パーセント近くの成長率を遂げました。通貨危機の影響が小さかった諸国の堅調な経済成長もあり、前年に引き続きアジアは世界で最も高い成長を遂げた地域でありました。

アジアの開発途上国経済は、2000年と比較しますと減速致しますが、2001年及び2002年も成長を持続すると見込まれます。幾つかの諸国では、2000年下半年から見られた世界経済の予想外の減速、及びIT・エレクトロニクス部門の需要の減退等外的リスクが高まりました。我々は、アジア諸国がこれらの下振れリスクに適切に対応できることを確信しており、新しい危機が起こるのではないかという一部の懸念は誇張されているように思われます。通貨危機の厳しい教訓を得て、アジア諸国は、危機前に比べますと、外部ショックに対する対

応力がかなり強まりました。以前より柔軟な為替政策を採用し、外貨準備高が増加し、外国からの短期債務も減少しております。また、改革の努力が続けられていることもプラスの要因であります。しかしながら、経済成長を持続的なものにし、更にマクロ経済の健全な運営を進め、構造改革を実施していく必要があります。特に、金融・企業部門でのリストラ、財政赤字の解消、ガバナンスの改善及び社会開発が重要であります。ADB は、開発途上加盟国の更なる改革に対して支援を続けて参る所存であります。

### ADB の2000 年の成果

皆様方の力強いご支援のおかげで、ADB にとって2000 年は、アジア・太平洋地域の貧困を削減するという究極の目標に向かって更なる前進のあった年であります。昨年のチェンマイでの年次総会以降の成果を要約しますと次のようになります。

第一に、貧困者重視 (pro - poor ) の持続的経済成長の促進、社会開発及びグッド・ガバナンス (良き統治) の3 つを柱にしたADB の「貧困削減戦略」を本格的に実施に移しました。この戦略に沿って、当該国、他の援助機関また幅広い関係者と緊密に相談をしながら、各国毎の「貧困分析」を行い、開発途上加盟国のそれぞれの貧困の状況・要因について理解を深めました。この分析結果を検討するため、各国ごとに「ハイレベル・フォーラム」を開催し、これを受けて、各国毎の貧困削減に関する「国別戦略・援助計画」を作成します。そして、各開発途上加盟国と貧困削減に関する「パートナーシップ協定」を結びます。この協定は、貧困削減に係わる具体的な目標や、支援のレベル及び重点業務が設定されております。この協定は、既に、バングラデシュ、インドネシア、モンゴルと調印しており、本年中には相当数の国と協定を結べるものと見込んでおります。

第二に、「民間部門開発戦略」を実施に移しました。アジアにおけるこれまでの経験から学んだように、貧困削減戦略の第一の柱になっております貧困者重視の持続的経済成長を達成するためには、活力ある民間部門が不可欠であります。この民間部門開発戦略の重点分野として、まず民間部門が活動し易いような政策・制度上の環境整備を支援して参ります。また、民間の投資を促すための触媒的な役割をADB が果たすようにするとともに、公的部門のプロジェクトの実施において民間投資の機会が増えるように工夫していきます。加えて、開発に貢献するような民間部門の投資を促進するために、ADB の債権保証業務を拡大することを目的とした、部分的債権保証及び政治的リスク保証に関する政策を理事会で承認致しました。

第三は、加盟国、国際開発機関、NGO 及び市民社会との緊密な相談の上、「社会保護政策」を作成しております。貧困削減戦略の第二の柱になっている社会開発にとって、社会保護は重要な役割を果たし、貧困の削減及び経済成長の質の向上のために有効な手段であります。また、この政策は、人的資本の育成、特

に女性の地位の向上や、生産性の改善、社会的弱者の保護に重点を置いております。

第四に、本年初頭に「グッド・ガバナンス促進のための中期目標及び行動計画」を採択致しました。グッド・ガバナンスは貧困削減戦略の第三の柱であり、この行動計画にはガバナンスに関する幅広い活動とイニシアチブを盛り込み、アジア・太平洋地域においてガバナンスが開発の取り組みの重要項目になることを目指しております。

第五に、ADB の開発途上加盟国での業務の効率と効果を高めるため2000年初頭以降新たに「各国駐在事務所設立政策」を実施して参りました。新たに、中国、モンゴル及びラオスに駐在事務所が設立されました。今年の初めにはADB本部内にフィリピン担当事務所が開設されました。

第六に、NGO 及び市民社会とのコミュニケーションと協力を強化するため「NGO センター」を設立し、国際的なNGO 及び地域のNGO との関係強化のための活動を開始しております。

第七に、ADB は、東チモール再建のための特別信託基金の設立に、世界銀行と共に重要な役割を果たしました。この基金によって、全ての援助関係者が協調して東チモールの再建のための支援を行うことができるようになりました。2000年初頭から、ADB のスタッフが世銀のスタッフと事務所を共有し活動しております。

第八に、ADB は、設立当初より太平洋諸国のような小さい国々の要請に応えて参りました。太平洋の開発途上加盟国は共通の挑戦に直面しております。経済成長の減速、比較的高い貧困率、そして環境悪化の早さであります。先般、「新世紀における太平洋戦略」を策定し、太平洋諸国のための戦略目標及び業務の重点項目を設定致しました。

第九に、バングラデッシュ、カンボジア及びベトナムを襲った洪水により破壊されたインフラの整備支援のために、これら3カ国への緊急融資を昨年末理事会で承認致しました。また、本年に入り地震に見舞われましたインドのグジャラートの復興のための緊急融資を承認致しております。職員は昼夜を分たず働き、記録的短期間で対応しました。また既存の「自然災害後の復興支援に関する政策」の見直しを開始し、災害後如何にしてより速やかに、より体系だった支援ができるかを検討しております。

最後に、「長期戦略」(Long -Term Strategic Framework )を設定いたしました。2000年を通じ、本件に関して、理事の皆様、多国間及び二国間援助機関、NGO 及び市民社会、外部の識者からなる諮問パネルの委員の方々と幅広い議論を行いました。この場を借りまして、皆様方の貴重なアドバイスに感謝致

します。この「長期戦略」は、貧困削減のための国際開発目標（International Development Goals）とリンクしており、ADB の新世紀の初頭15年（2001年から2015年まで）におけるビジョンと課題を盛り込んでおります。この戦略は、貧困削減という我々の究極の目標を達成するための重要な道標であります。

### III . 新世紀の挑戦

新世紀に入りまして、アジア・太平洋地域の開発途上加盟国は多くの重大な挑戦に直面しております。その中でも重要な三つの挑戦、つまり貧困削減、環境悪化及びグローバルイゼーションへの対応について述べたいと思います。

#### 貧困削減

第一に、最も重要な挑戦は貧困削減であります。多くのアジア諸国は、過去30年間素晴らしい経済成長を続けてきましたが、アジア・太平洋地域には、未だ、世界の貧しい人々の三分の二が住んでおります。現在の貧困の状況は容認できるものではありません。各国の政策と行動で貧困の撲滅は可能であり、撲滅すべきであります。極めて貧しい人々の比率を2015年までに半減させるという国際的目標があります。この実現のためには、世界の貧しい人々の三分の二が住んでいるアジア・太平洋地域がその先頭に立たなければなりません。貧困削減戦略の三本柱の貧困者重視の持続的経済成長、社会開発及びグッド・ガバナンスにより、多岐に渡る貧困の問題に包括的に取り組んで行くことが可能になり、貧困削減の取り組みがより焦点の当たったものとなります。

我々の貧困削減への戦いには民間部門が重要であることはいうまでもありません。民間部門は、「経済成長の原動力」であり、貧困削減に重要な役割を果たします。開発の過程に民間部門が参加するための適切な環境を途上国が整備していくために、ADB は重要な役割を果たすことができます。また、この地域において膨大なインフラ整備が必要だということに鑑みれば、官民協力（public-private partnership）を含めた更なる民間部門の参加・貢献が不可欠であります。

次に、教育、保健、衛生等の基礎的サービス、またソーシャル・セイフティ・ネットの確立は貧困削減戦略の第二の柱である社会開発にとって不可欠であります。現在策定中の「社会保護戦略」と「教育に関する政策」は、ADB の社会開発に関する業務を強化することとなります。

貧困削減はグッド・ガバナンスという第三の柱無くしては達成できません。グッド・ガバナンスは、全ての人々に便益を齎しますが、特に、悪しきガバナンスによる影響を避けられない貧しい人々にとっては最も便益を与えるでしょう。ADB がグッド・ガバナンスの促進を支援するにあたって、アカウントビリティー（説明責任）、パティシペーション（参加）、プレディクタビリティー（予見

可能性)及びトランスペアレンシー(透明性)に取り組んでおります。グッド・ガバナンスと経済成長は深く係わっております。本年採択した、「グッド・ガバナンスの促進のための中期目標及び行動計画」はこの努力を導いていくものであります。

### 環境悪化対策

第二番目の挑戦は、環境悪化への対応であります。貧困は環境悪化の原因であり、また深刻な結果でもあります。アジアの多くの地域における空気と水は世界で最も汚染されています。貧しい人々が自然環境の破壊から最も影響を受けます。例えば、都市部の貧しい人々は最も汚染された地域に住み、最も危険な仕事についております。急激な都市化は、都市部の環境悪化や貧困増加につながります。資源の枯渇や土地の破壊は、最も生産性の低い土地に貧しい人々を追いやります。

アジアの将来は、空気、水の汚染、固形廃棄物や危険な廃棄物の処理、森林伐採、砂漠化、生植物の多様性が失われて行くこと等の問題に我々が如何にして取り組んでいくかにかかっています。環境への配慮が、途上国の主な政策決定・運営の重要な要素になるべきだと考えております。グッド・ガバナンスと貧しい人が住むコミュニティの参加が、持続的な環境管理にとって不可欠であります。

このような貧困と環境の関係を認識した上で、ADBは、貧困削減戦略を補完する新しい「環境政策」を策定中です。本政策では、貧しい人々が必要とする環境資源を保護し、環境保護という目標を経済発展のプロセスに組み入れ、必要な資源が環境改善のためにより使われるような制度の改革を促進していくことを目指しております。

### グローバリゼーションへの対応

第三の挑戦は、グローバリゼーションへの対応です。グローバリゼーションは、開発途上国に様々な機会を提供いたします。資源、資本、技術、ノウハウ及び市場へのアクセスが拡大し加速することにより、途上国は、開発の選択肢を広げ、開発のプロセスに入り込んでいく力をつけることができます。アジア諸国は、概ね、グローバリゼーションの恩恵を受け、経済成長を達成し貧困を削減して参りました。

しかしながら、グローバリゼーションは、様々なリスクを伴いますし、そのリスクを最小限に食い止めることが必要です。グローバリゼーションは、社会的・経済的緊張や金融部門に急激な変化をもたらします。最近の通貨危機に見られたように、急激な変化は国内の金融制度に悪影響を与え、企業部門に困難をもたらし、特に当該国の政策や制度・組織が脆弱である場合には、大きな打撃

を与えます。そのような場合、貧しい人々、技術を持たない人、また教育を受けていない人々が最も被害を被ることになります。

抗しがたい経済上・技術上のうねりにより、将来、世界経済はよりグローバルになっていくでしょう。開放経済に背を向けることは、グローバル化の挑戦に対する適当なアプローチとはいえません。真の挑戦は、グローバル化から得られる便益を最大化する一方、そのリスクとそれがもたらす悪影響を最小限に食い止めることでもあります。グローバル化に対応していくには、グローバルな市場に効果的に参入できるような能力を身につけていかなければなりません。変化する外部の環境に経済構造を適応させていく能力が必要なのです。

また、グローバル化に対応していくためには、安定したマクロ経済、適切な規制と監督及び金融・企業部門における構造・制度改革が必要であります。現在、貿易・投資、金融、経済のモニタリング等の様々な分野において地域協力が進んでおりますが、アジア・太平洋地域が急速に変化する環境に対応していくための能力を強化するため、地域協力は益々重要な役割を果たしていくでしょう。また、グローバル化が貧しい人々に及ぼすリスクを最小化する措置も採っていく必要があります。教育、保健、職業訓練及び社会的保護政策に焦点を当てていくべきであります。ADB は、開発途上加盟国の金融部門の強化、資本市場の育成、銀行監督の改善、地域協力の促進、適切な社会保護制度、教育、職業訓練の整備・強化を引き続き支援して参ります。また、現在策定中の「情報・通信技術戦略」に基き、ADB の開発途上加盟国が技術革新に対応していくための支援をして参ります。

#### IV .21 世紀を迎えての最初のステップ

21 世紀に入り、ADB がまず取っている施策は次のように要約されます。

第一に、「長期戦略」の策定であります。ADB は、開発途上加盟国が貧困を削減し、人々の生活を向上していく努力に支援をして参ります。長期戦略は、「貧困削減戦略」の3つの柱に連結する3つの分野を強調しております。また、横断的な3つのテーマを掲げています。第一に、開発における民間部門の役割の促進、次に開発のための地域協力への支援、そして環境の保全であります。また、長期戦略は、ADB の業務遂行にあたって、当該国のプロジェクトに関する強いオーナーシップ（自主性）、戦略的協力関係の強化、開発効果のモニタリングの重要性を挙げております。長期戦略は、2001年から2005年までの5年間に渡る「中期戦略」を基に実施されて参ります。

第二に、ADB の組織の見直しです。長期戦略を実施し、アジア・太平洋地域における挑戦に対応していくためには、ADB の能力を強化する必要があります。

そのため、ADB の組織の見直しに着手したところであります。この見直し作業の終了後、加盟国、関係者と相談の上、必要な措置を取って参ります。

第三に、関係者との協力強化であります。長期の協力関係を築いて行くため、他の国際機関、各国の援助機関及びNGO など市民社会を含めた、幅広い開発パートナーと緊密に協力していくための、新しい枠組を検討中であります。米州開発銀行とのパートナーシップ合意、またUNEP(国連環境計画)及びUNDP(国連開発計画)とのMOU(覚書)も最近調印されました。世界銀行やILO(国際労働機構)とMOUを結ぶべく現在検討中でございます。また、最近設立したNGOセンターは、NGOや市民社会との新しい協力関係を模索しているところでございます。

第四に、アジア開発基金(ADF)の効果的かつ効率的な利用でございます。この場をお借りして、ドナー側の加盟国の皆様、に、昨年9月成功裡に決定されましたADFVIII財源への寛大な拠出に感謝申し上げます。貧困削減のための貴重なADFの財源を効果的かつ効率的に利用していく所存であります。新しく採択致しました「パフォーマンスに基づくADF財源配分」に関する政策も現在実施に移しております。

第五に、適切な財源や人材の確保であります。ADBの開発目標を達成するとともに、開発途上加盟国が予期せぬ必要性に迫られた際に速やかに対応できるよう、我々は適切な財源を確保しておく必要があります。我々のアプローチは、既存の財源に関して健全な運営を維持するとともに、まずは既存財源を最大限活用する努力を十分行っていくことです。このようなアプローチは、まさに、ADBの融資業務と技術援助業務を行っていくように、財源を適切な水準に保つという努力を裏付けるものであります。ADBが効果的業務を行っていくためには優秀な人材が必要であります。我々は、どのような技術が必要とされているかを絶えず検討し、有能なスタッフを確保して参ります。アジア・太平洋地域のための開発銀行として、究極の目標である貧困削減を効果的・効率的に実施していくよう努めて参ります。

## V . 結論

最後に、私のフィリピンにおける最近の体験をお話ししたいと思います。4月28日の土曜日に、ADB本部がありますフィリピンの首都マニラで、路上生活を送っているストリート・チルドレン500名をADB本部に招待し、「私の街」というテーマで絵画コンテストを開催致しました。その若い「ストリート・アーティスト」達は、NGOにより支援を受けているストリート・チルドレン達であります。200名のADBのスタッフとその家族、理事の方々、NGOの方々がボランティアとしてコンテストのお手伝いをしてくれました。

子供達は皆、熱心に絵を描き、その中には数多くの傑作がありました。この会議場の一階にも、その幾つかの作品が展示されておりますので、ご覧になった方もいらっしゃるでしょう。彼らの作品には、自分達の悲しい現実を描いたものもありますし、夢を描いた絵もありました。また、幾つかの作品は、現在の悲惨な生活から明るい未来に抜け出ようとする決意や抱負を表していました。私が最も心を動かされたのは、子供達の芸術的才能もさることながら、子供達が自分達の希望や夢により形づくられた未来を追い求めていこうとする真剣さです。子供達の絵は、少年少女の未来への大きな夢を雄弁に語っています。子供達の輝く目を見ていると、全ての子供達、そしてアジア・太平洋に住む全ての人々のために、より良い世界を築かなければならない、それは我々の責任であり、それは我々の義務である、と心の中に強く感じたのであります。

新世紀に入り、長期戦略は、我々のビジョンを行動へと導き、2015年までに貧困を半減するという国際開発目標の実現へと導いてくれる重要な道標を指し示してくれます。貧困は、多元的な問題です。貧困削減戦略の3つの柱、すなわち貧困者重視の持続的経済成長、社会開発及びグッド・ガバナンスは、全て貧困削減にとって欠かすことができない要素です。アジア開発銀行は、全加盟国、全理事会メンバー、そして献身的なスタッフの全面的な支持を得、かつ、すべてのパートナーとの緊密な協力の下に、アジア・太平洋地域を貧困から解放するという強い決意に燃えております。それは、容易な道ではありません。しかし、皆様方と共に立ち向かうことによって、我々の子供達に、そして彼らの子供達に、アジア・太平洋地域を、全ての人々が尊厳と希望を持って暮らすことができる地域にするという約束を、必ず果たすことができると確信しております。